

『心の湧き水』～『それぞれの賜物 と 行き方』～

2024年4月7日 wifeと午前中『KBF in CAJ』に赴いた。『ひとりひとり ー それぞれの賜物を持っているので、人それぞれに 行き方があります。』（コリント人への手紙第一 第7章7節）が、『個性と多様性』の原点回帰の時となった。また、筆者が若き日に、新渡戸稲造(1862-1933)から学んだ『言葉の処方箋』が鮮明に思い出された(下記)。

- 1) 間断なき努力は進歩の要件
- 2) 自分の力が人に役に立つと思うときは進んでやれ
- 3) 意志は人なり
- 4) 学問より実行
- 5) 『愛がなければ 全ては無意味』

『がん哲学外来 in 新渡戸稲造記念センター at 新渡戸記念中野総合病院』の心得でもある。

【人からかけてもらった ひと言で、人の気持ちは 大きく変化するものである。小さなひと言で 悩みや緊張感から 抜け出せることは 少なくありません。このような言葉の効用を、筆者は、『言葉の処方箋』と呼んでいる。その後の人生において ずっと効き続けるはずである。相手にとって 大事なことを考えて、相手がその通りだと 感じる言動でもある。】

東久留米市の『富士山に見える富士見通り』でwifeと昼食後、『黒目川ー落合川』を散策した(画像)。満開の桜を観ながら 心休まるひと時であった。また、川の中を泳ぐ鯉を見ながら、『公義を水のように、正義をいつも水の流れる川のように、流れさせよ』(アモス書5章24節)を実感した。これが、まさに『心のSpring Water (湧き水)』ではなかろうか! 『練られた品性と綽々たる余裕』は、『心のSpring Water (湧き水)』の真髄である。

今回、大変、有意義な『黒目川ー落合川の散策の旅』となった(画像)。

